

数

セ

ミ

数学セミナー

sugaku seminar july 1987

vol.26 no.07 | 308

遠山啓 + 矢野健太郎 = 創刊 日本評論社

特集/数学オリンピック

国際数学オリンピック(IMO)の歴史
— 松信

名作を探ねて(IMOの問題から)
— 秋山仁

1986年IMO全問題
数学オリンピック体験談 — P.フランクル

オリンピヤード 諸国巡り — 井関清志

問題を解く — 柿内賢信

放物線のことを知っていますか

岩井齊良 — 下林山穂

パソコンで魔門陣を — 倉田令二郎

ゆうべの1冊 — 深石博夫

coffee break — 萩尾みどり・井上章一

TEA TIME — 戸村浩

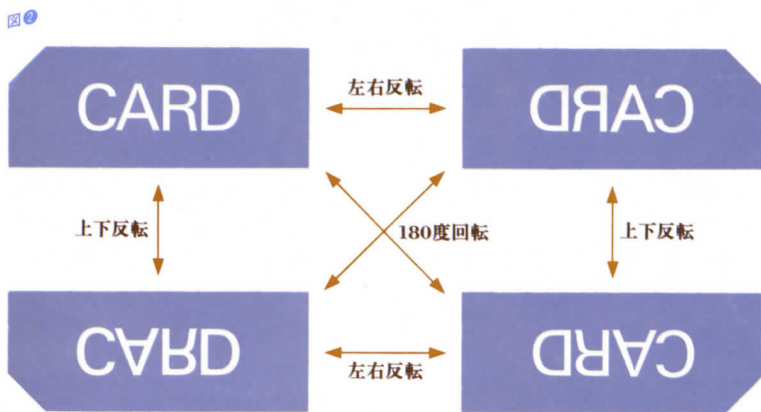
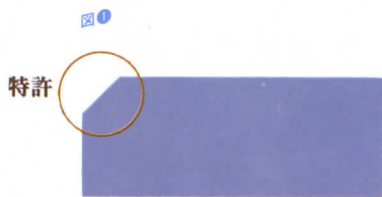
新連載 高校数学外伝III

— 足立久美子ほか

昭和62年7月1日発行/毎月1回1日発行/通巻308号/
昭和37年4月3日第3種郵便物認可

ISSN 0386-4960

07-87



カードの隅切り — 西山豊

紙カードは、プログラムやデータをコンピュータに入力するための媒体として広く用いられてきた。最近では、その主役をフロッピーディスクに譲っているが、私鉄や地下鉄の交通量の調査などには、カードが今でも重宝がられている。

カードは、一般に長方形であるが、左上隅に切り込みがなされている。この切り込みは、決して飾りではない。IBM社が、コンピュータの前身であるパンチカードシステムを開発した時、この隅切りを含むカードの全てに特許をとったというこ

とを人から聞かされ、感心したことがある(図①)。同社の今日の世界制覇を築く基礎がここにあったのだろうか。

カードの隅切りが、なぜ重要かについて、数学的に考えてみると、極めて明白になる。カードの形は長方形であり、左右、上下対称である(図②)。もし許すと4通りの位置関係があれば、正しく読めない。正しくセットされなければ、カードが現在どのような状態になっていて、それを正しく戻すにはどうすればよいかが一目にして分るのである。

(38ページにつづく)

図① コンピュータの入力カード
図② 4通りの位置関係